吉備所報

第 10 号

1991年３月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

津寺遺跡（古墳時代初頭）

津寺遺跡の発掘調査終了

山陽自動車道岡山ジャンクションの調査も昨年末で終了しました。約３年にわたる歳月を要したこの遺跡の調査によって、各時代の多くの遺構が検出されました。ここでは、その全体像をおおづかみに概観したいと思います。

この遺跡には、南北約300ｍ、東西約220ｍの大きな微高地があり、それが核となり遺構の消長が見られます。調査中に出土した遺物で最も古いものは、量的には少ないものの縄文時代晩期の土器片があります。しかし、それに伴う遺

構は発見されていません。弥生時代前期になると、数基の土壙が検出されており、そのころからこの地に人が生活を始めだしたものと思われますが、住居跡は発見されていません。発掘調査で検出した最も古い住居跡は、弥生時代中期のものです。弥生時代の住居跡は、微高地の全

弥生時代中期の住居跡

体に点在しており、43軒を調査しました。同時代もしくは後期の初めごろの貯蔵穴は、245基を検出しました。貯蔵穴は、埋没した河道の周辺に集中して造られる傾向が見られます。微高地周辺の低位部には、小範囲ではありますが弥生時代中期の水田跡を検出しました。

津寺遺跡に住居跡が最も密集して造られるのは、古墳時代の初めのころです。調査した総数は約280軒あり、未調査区を含めると300軒以上は存在したものと推定されます。住居跡の大きさを見ると、一辺６～７ｍの大型のもの、４～

土器棺の出土状況

５ｍの中型のもの、３ｍ以下の小型のものがあります。大型のものは８軒、中型のものは240軒あります。これらの住居跡を溝や地形を考慮して、集団構成を見ると３－４グループに分けられ、そのグループの中に１、２軒の大型の住居跡が存在しています。住居跡は最大４軒の重複が見られることから一時期に全てが建っていたのではなく、３－４期に分けられるものと思われます。微高地上には、北東から南や南東方向に数本の溝が掘削されています。これらの溝は、微高地の南側や東側に広がる水田に水を引くための用水路と考えられます。居住区の東側には水田跡を検出しました。小さく区画された水田跡の面積は平均約40㎡ほどで、大きなもので約70㎡あります。この水田跡の東約70ｍにも微高地があり、その東側にもまた水田跡が広がっている状態を見ると、西側微高地に多数見られる住居跡は、急激な人口増加を示すものであり、それに伴う水田面積の急増を示すものと思われます。

古墳時代の後半になると、住居跡の在り方に

古墳時代初頭の水田跡

大きな変化が見られます。古墳時代中頃にふたたび大洪水があり、住居を流失させ一帯に広がる水田が埋めつくされたものと思われ、古墳時代前半期まで水田であった部分が埋まり、東側微高地では水田が埋まった上に住居跡が造られています。この時期の住居跡は、135軒を検出していますが、西側微高地から49軒検出したのに対し、東側微高地からは86軒を検出しています。弥生時代から古墳時代初頭には生活の中心地であった西側微高地は古墳時代後半も古い時期のものが散在しているのに対し、東側微高地には、古墳時代後半も新しい時期のものが密集しています。これは、何らかの理由により生活の中心が移動していることをうかがわせます。東側微高地で検出した住居跡86軒は、調査区の東北端に特に集中してみられ、そこに一つのま

とまりを見ることができます。その南には、溝を隔ててもう一つのまとまりが見られます。さらにそれらの西側に別の一群を見ることができます。このように、東側微高地の住居跡を３グループにわけることができます。この時期の住居跡は、ほぼ方形を呈するもので北もしくは西側の壁に沿ってカマドが造り付けられます。そして住居跡の外に向けて煙道を掘り抜いて煙を住居跡外に導いています。

古代の遺構として注目されるものに護岸施設と方形区画溝があります。護岸施設が築造されたのは７世紀前半と考えられ、西側微高地の北端に造られていました。護岸施設は、数千本の杭を横木と組み合わせながら打ち込み、杉皮、小枝、ヨシ、アシを敷く面と盛り土を交互に積み重ねるなど高度の土木技術を駆使しているこ

古墳時代後期の住居跡群

とが分かりました。方形区画は、西側微高地の中心部分で検出し、東西約90ｍ、南北約120ｍの方形に溝が巡るもので、区画の内側に掘立柱建物が13棟見つかりました。それらの建物は、その中心軸の方向をほぼ同じくするもので企画性をもって建てられています。この建物群の時期は、奈良時代に属し、地方官衙の可能性が高いものと考えられますが、具体的な性格はまだ不明です。方形区画の東側にも散在的に建物が検出されています。建物としては、総柱建物、側柱建物があり、倉庫と考えられるものが多く見られます。全体的な遺構の状況を見ると、方形区画の西側には古代の遺構が見られず、東側のみに集中することから、この時代の生活の中心が東側の地区にあったと考えられます。

中世～近世の居住区は、東側と西側とに分けられ、その間には水田跡が細長く南北に広がっています。遺構は、調査区のほぼ全体に見られ、特に西側の南東部分に偏ってみられます。それらの遺構をグループに分けると、南東部の一群、その北側に一群があり、少し間をおいて北側に一群が見られます。これらのグループは、少し

奈良時代の建物群

時期を異にするようです。遺構としては、多数の柱穴を検出しましたが、建物としてまとまったのは、西側で41棟です。北端部の一群では、廂（縁）を持った建物を中心に雑舎が配置された様子が見られます。建物、柱穴群の集中する場所には、木組、石組の井戸があります。また、建物とは時期を異にする土壙墓が、３～４グループのまとまりを見せています。大溝より南側には、畑の畝状の遺構が見られるが、柱穴等の生活に関係する遺構が少ないことから、居住

中世の建物群

区と田畑との区別がなされていたと考えられます。この津寺遺跡も近世の遺構を最後に居住区としての利用は終わり、全体が水田となり現在へ引き継がれてきました。　　（井上　弘）

センターの年間事業（平成二年度）

調査第一課

1990年度、調査第一課は、旭川放水路改修事業に伴う百間川遺跡群の調査に３名、中国横断自動車道に伴う調査に４名、山陽自動車道備前工事区関係２名（１月～３月４名）、国道２号バイパス関係２名、前川河川改修事業に伴う窪木薬師遺跡２名（１～３月まで３名、６月－８月まで総社市応援１名）、県立大学関係６名（１月－３月７班21名）、デスク担当５名（内１名は文化課本務）の体制でそれぞれの事業に従事した。

受託事業関係では、百間川遺跡群は上流から原尾島、兼基、今谷の各調査区の調査を行い、それぞれ、弥生時代から中世に至る溝、水田等の遺構を調査した。また岩間調査区では中世の遺跡の広がりをさらに詳細に確認した。中国横断自動車道関係では、久世インター部分にあたる中原古墳群（久世町）の調査と中国縦貫自動車道とのジャンクション部分にあたる元定古墳群・同弥生時代集落（落合町）を中心的にすすめた。中原古墳群では横穴式石室墳２基の他、大部分が箱式石棺を内部主体とする古墳20基を

中原３号墳全景

調査した。これら箱式石棺墳の出土遺物は全般に皆無か希少であったが、24号墳からは竪櫛が37本出土した他、周溝とＫ号墳から初期須恵器が出土し注目された。山陽自動車道備前工事関係では、松尾古墳群（瀬戸町）の全面調査と、その他、確認調査を実施した。国道２号バイパス関係では、浅川古墳群（所報９号参照）、高下散布地（岡山市）を調査し、吉井川右岸における沖積平野の集落跡解明の手がかりをつかむことができた。

デスク対応は、年々１遺跡の調査面積が増大し、調査員不足は否めない。みそのお古墳群他は前号で述べた。県立大学建設に伴う発掘調査は、４月から12月までは３地区の建物用地を調査し、１月から３月までは山陽自動車道関係の調査終了に伴う、緊急応援体制を組み、７班21名の調査体制で７地区の建物用地を調査するハードスケジュールであった。その結果、縄文時代晩期前葉の火処を伴う包含層や、弥生時代前期前半の住居跡、同土壙あるいは弥生時代後期の住居跡、建物、溝、水田の他古墳時代、古代、中世の遺構を調査した。

前川河川改修に伴う窪木薬師遺跡（総社市）は、６月から８月まで総社市の応援を得たのち１月から３月までは県大と同様な応援体制で３名の調査員で実施した。遺跡は弥生時代後期前半から近世に至る複合遺跡である。中でも陶質土器を伴う古墳時代前半の住居跡のカマドからは全長20.5㎝を測る鉄鋌（てってい）が１点出土し、また他

窪木薬師遺跡出土鉄鋌

にも古墳時代後半期の小鍛冶遺構、竪穴住居等に鉄器、鉄滓が数多く供伴することから鉄器生産に関連した集落跡として多くの話題を呼んだ。その他、圃場整備に伴う赤浜遺跡（総社市）の確認調査や、川戸古墳（大原町）、県道改修に伴う栗井古墳など数々の調査を実施した。

また、普及啓発事業として、スライドによる岡山県下における埋蔵文化財調査概要の報告会、夏休み少年考古教室、埋蔵文化財事務担当職員研修会や発掘調査現場の説明会などを行った。

（河本　清）

調査第二課

本年度の調査第二課の組織は、3係8班体制をとり、総数24名の調査員で、岡山ジャンクション部の調査にあたった。岡山ジャンクション部の中心部分については、昨年度でほぼ完了しており、その内容については本誌前号までにしばしば紹介してきたとおりである。今年度は、この西側微高地の縁辺部とそれに続く東側が調査の主体となった。

西側微高地の東側縁辺部は、徐々に東に下がり低位部を形成する。低位部の幅は約70mで、その東側にも別の微高地が存在する。この低位部には、水田が造られている。水田跡の上限は明確ではないが、弥生時代中期にさかのぼる可能性はある。弥生時代中期の水田跡と推定される範囲は低位部の中心に近い一部分であり、その範囲は狭いが継続的に水田として営まれ、時代の経過とともにその面積は拡大していった。しかし、古墳時代初頭には大洪水によって一帯の集落と水田は壊滅的な打撃を受け埋没してい

古墳時代前期の住居跡

る。一方、東側微高地の弥生時代の遺構としては、溝を検出したのみである。溝は南に流れるもので、この微高地の南側へ想定できる水田に水を導く用水路と考えられ、古墳時代前半まで機能していたらしい。津寺遺跡の水田跡の面積が最も広い時期は、古墳時代初頭であり、東西二つの微高地縁辺の低位部では全面に水田跡が検出されている。

古墳時代の前半期に洪水により埋没した水田跡であるが、両微高地の間は、わずかではあるが低位部として残り、古墳時代後期以後中世まで、範囲は狭いながらも水田として開田され続けている。しかし、東側微高地では様相が変わり、水田跡が埋まり微高地化した部分にも住居跡が多数検出されたので、居住区であったことが分かる。古墳時代後半の住居跡は、西側微高地49軒に対し、東側微高地では86軒を検出しており、面積に対する軒数からすれば、密集度は東微高地が高いといえる。後半期の住居跡も時期で分けると、5世紀～6世紀初頭の住居跡は西側微高地に集中し、6世紀末～7世紀初頭のものは東側微高地に集中してみられる。東側微高地の住居跡も集団化の傾向が見られ、溝により規制されるようすが窺える。この微高地は東側に50～60m広がることから、古墳時代後期後半の大集落を想定することができる。

西側微高地には官衙遺構と推定される奈良時代の遺構が存在するが、東側にもそれらと同時期の遺構が検出されている。建物は23軒を確認している。総柱建物、側柱建物があり、数か所にまとまりを見せるが、企画的な配置は必ずしも明確ではない。また、廂を持つ建物も存在し

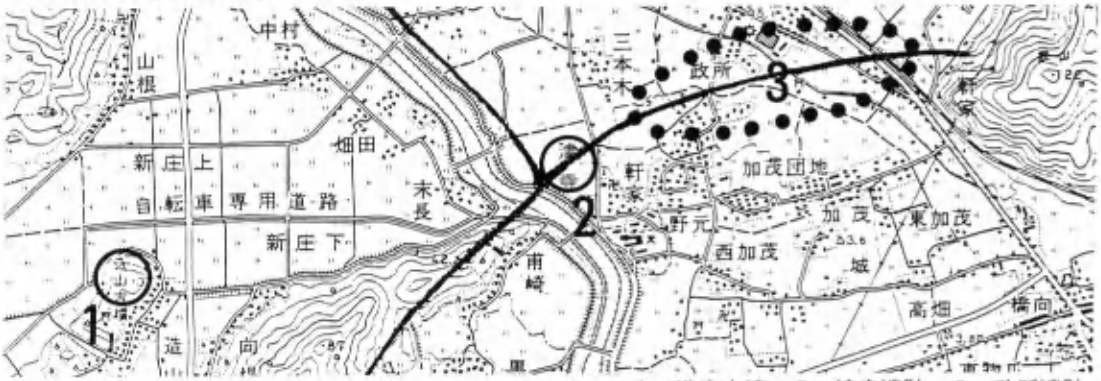
巡方（じゅんぼう）

ており、住居建物、倉庫建物が存在することは解るが、住居区と倉庫群とが何により分けられるかは不明である。

中世～近世の遺構としては、多数の柱穴を検出したが、建物としてまとまるものは少ない。その他の遺構としては、井戸、土壙墓、溝等がある。中世の水田跡としては、古代のものとほぼ重なるものであり、弥生時代中期以降継続的に検出された。

津寺遺跡ジャンクション部の今年度の調査は、以上のような成果を得て12月末にすべての発掘調査を完了させた。　（井上　弘）

調査第三課



1．造山古墳　2．津寺遺跡　3．政所遺跡

政所遺跡位置図（1/25000）

本年度調査第三課は、山陽自動車道建設に伴う事前の緊急発掘調査として、津寺遺跡高田調査区、政所遺跡高田調査区、同砂場調査区、同立田調査区の調査を行いました。

調査の結果、宮西調査区を含め、六か所の微高地の存在が確認できました。検出した遺構には、弥生時代中期中葉から近世までのものがありました。遺物は、弥生時代中期前葉から近世までのものが出土しました。

弥生時代の遺構としては、竪穴住居、袋状土

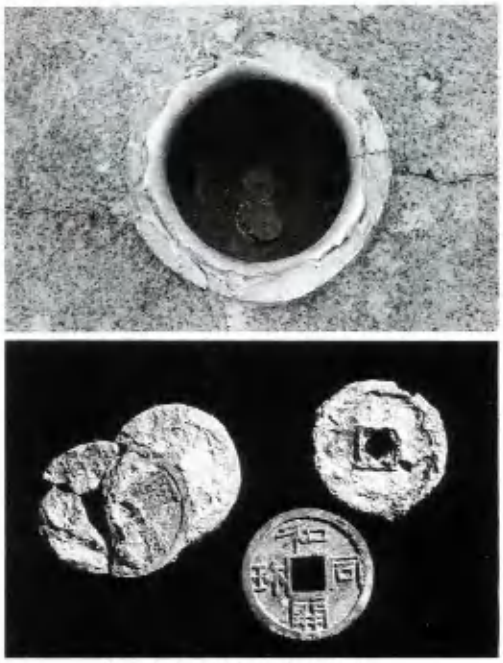
土器棺出土状況・作業風景

壙、土壙、土器棺、土器溜り、井戸、溝、水田がありました。中期中葉の土壙には、貝殻を多量に伴うものが見られました。古墳時代の遺構としては、竪穴住居、掘立柱建物、土壙、溝、土器溜り、水田が検出されました。古代から中近世の遺構は、掘立柱建物、火葬墓、土壙墓、土壙、井戸、水田、畑、溝がありました。

注目すべき遺物としては、銅釧（所報８・９参照）・土器棺・飛鳥時代の瓦・胞衣壺・平安時代の瓦・大木を刳り抜いた井戸枠・竜頭・撞座の鋳型があります。

胞衣壺は、津寺遺跡高田調査区の現地表面から約60㎝下の奈良時代の柱穴から出土しました。出土状態は、土師器の壺の中に須恵器の杯蓋がわれて落ち込み、底に五枚の和同開珎がその文字を上にして重なり合っていました。胞衣壺は、胎盤を納めた壺のことで、最近まで県下でも魔よけと子供の成長を願って行われており、民俗行事の一つとして知られています。

竜頭・撞座の鋳型は、砂場調査区内の土壙か



胞衣壺出土状況・和銅開珎

竜頭・撞座の鋳型

井戸枠出土状況

ら出土しました。土壙の内部には、梵鐘（ぼんしょう）各部の鋳型の破片・炉壁・溶滓（ようし）・青銅片・鉄器・土器・石が充満していました。つり鐘のつり手部分である竜頭の鋳型は、竜の顔面にうろこなどの装飾がなく、古い様式を表しています。また撞木のあたる部分である撞座の鋳型の文様には、蓮弁（れんべん）・蓮子（れんじ）が表現されていて、そのデザインは平安時代後期の典型的なものです。

以上、大量の瓦の出土、梵鐘鋳造遺構等の発見により、当該地区には平安時代後期の寺院の存在が考えられます。　（古谷野寿郎）

普及啓発事業

平成二年度　埋蔵文化財担当者研修会

研修会は、県下の行政機関において埋蔵文化財を担当する事務職員を対象に、埋蔵文化財保護行政の一層の理解と進展を図る目的で、隔年で実施しています。今年度は２月22日、43名の参加を得て当センターで実施しました。

講師には、山口県埋蔵文化財センター次長中村徹也氏を迎え、「山口県における市町村の埋蔵文化財保護行政の現状」と題して講演をいただき、また当センター次長河本清は「開発と文化財保護」を講演しました。中村氏は、全国的な文化財調査の実態と傾向を踏まえながら、山口県での実態にふれられ、市町村における専門職員の体制整備の必要性と文化財の活用方法について述べられました。また、河本次長は、文化財の保存問題について、県下はもとより遠くヨーロッパの事例等をスライドを用いて説明しました。

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表（平成二年度）

	遺跡名	所在地	調査の原因	遺跡の内容	調査期間	面積(㎡)
1	赤浜散布地	総社市赤浜	県営圃場整備	弥生～中世集落跡	4.9 ～ 5.23	460
2	窪木薬師遺跡	総社市窪木薬師	前川河川改修	弥生～中世集落跡	6.1 ～ 3.31	3,000
3	窪木遺跡・南構手遺跡	総社市窪木・南溝手	県立大学建設	弥生～中世集落跡	4.1 ～ 3.31	17,791
4	みそのお古墳群	御津群御津町高津	御津工業団地	弥生墳墓・古墳群	4.1 ～ 3.31	6,700
5	立石遺跡	苫田群鏡野町小座	国道179バイパス	弥生～奈良集落跡	10.31～11.13	720
6	立田遺跡	岡山市立田鼓山下	排水機場建設	弥生～中近世集落跡	4.9 ～ 5.11	150
7	塚の上1号墳	岡山市三和1829－2ほか	新空港関連	古墳	12.17～12.21	35
8	津山城外堀跡	津山市山下	都市道路新能橋押入線	津山城堀跡	10.23～10.31	326
9	粟井大塚14号墳	岡山市粟井	県道改良	古墳	4.23～ 7.12	800
10	津寺三本木遺跡	岡山市津寺	〃	弥生－近世集落跡	2.1 ～ 3.31	355.4
11	百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島	百間川河川改修	弥生～中世集落跡・弥生水田跡	4.1 ～ 7.27	938
12	百間川兼基遺跡	岡山市兼基	〃	弥生～中世集落跡・弥生水田跡	7.12～ 9.27	598
13	百間川岩間遺跡ほか	岡山市岩間	〃	中世集落跡	9.27～10.24	491
14	百間川今谷遺跡	岡山市今谷	〃	弥生～中世集落跡・弥生水田跡	10.25～ 3.31	1,720
15	百間川沢田遺跡	岡山市沢田	〃	弥生時代水田跡	8.17～ 8.24	9
16	百間川岩間遺跡	岡山市岩間	〃	中世集落跡	11.13～11.26	128
17	津寺遺跡	岡山市津寺	山陽自動車道建設	弥生～中世集落跡	4.11～ 2.31	18,324
18	政所遺跡	岡山市加茂	〃	弥生－中世集落跡	4.9 ～ 3.31	15,344
19	実教寺北遺跡	赤磐群瀬戸町鍛冶屋	〃	遺構・遺物なし	4.1 ～ 4.21	270
20	松尾古墳群	赤磐群瀬戸町万富	〃	3基	5.7 ～ 8.4	610
21	奥池西遺跡	〃　〃　池の内	〃	遺構・遺物なし	7.18	21
22	奥池北遺跡	〃　〃	〃	〃	9.10～ 9.28	516
23	塩納成遺跡A	〃　瀬戸町塩納	〃	〃	10.29－11.8	73
24	〃　B	〃　〃	〃	〃	10.18－10.26	80
25	満願寺遺跡	〃　熊山町奥吉原	〃	〃	11.14～11.15	58
26	斎富古墳群	〃　山陽町斎富	〃	5基・中世墓1基	2.25～ 3.13	230
27	津高条里	岡山市田益	〃	弥生－中世集落跡	2.4 ～ 2.27	210
28	白壁古墳	岡山市横井上中ノ谷	〃	古墳	1.10～ 1.30	300
29	浅川古墳群ほか	岡山市鯉原・浅川	国道バイパス建設	古墳・散布地	4.1 ～ 5.2	464
30	浅川古墳群	岡山市浅川	〃	2基	7.4 ～ 8.31	250
31	高下散布地	岡山市竹原	〃	弥生－中世集落跡	5.7 ～ 6.25	440
32	高下遺跡	岡山市竹原	〃	古墳－中世水田跡・集落跡	9.25～ 3.31	6,450
33	木谷古墳群	真庭群久世町目木	中国横断道建設	弥生集落・古墳3基	4.1 ～ 5.31	800
34	大内原散布地	〃　〃　〃	〃	中・近世集落跡	6.1 ～ 6.30	900
35	中原古墳群	〃　〃　中原	〃	21基	4.1 ～ 3.31	10,265
36	信実散布地	〃　落合町上河内	〃	遺構なし	7.2 ～ 7.15	400
37	元定散布地	〃　〃　〃	〃	弥生集落跡	11.11～11.30	120
38	元定古墳群	〃　〃　〃	〃	古墳	11.1 ～ 3.31	3,500

編　集・発　行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地　〒701－01
岡山市西花尻1325－3
電　話　(0862) 93－3211

◉交通案内
- ＪＲ山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ＪＲ吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ＪＲ岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩５分